

(別冊)

新臨床研修医オリエンテーションプログラム
—特にコ・メディカル研修について—

岩手県立中央病院 医療研修部

高橋 弘明・關 博文・佐々木 崇

岩手県立高田病院

石木 幹人

岩手県立病院医学会雑誌・第44巻 第2号 2004

新臨床研修医オリエンテーションプログラム

ー特にコ・メディカル研修についてー

岩手県立中央病院 医療研修部

高橋 弘明, 關 博文, 佐々木 崇

岩手県立高田病院

石木 幹人

本年度より卒後臨床研修が必修化され、当院では研修医19名が初期研修をしている。当院の研修理念は3項目あるが、その第3に「チーム医療のリーダーとしての自覚を持ち、他職種の職能を理解し協調しながらチーム医療を実現して行く能力を身につける。」という項目をあげている。チーム医療のリーダーとしての能力を育むためには、他職種の業務内容を身をもって体験し、理解していることが望ましい。そこで、当院ではオリエンテーションにコ・メディカル研修を取り入れ、看護部3日間、臨床検査部2日間、中央放射線部、薬剤部、栄養管理室、各々1日の体験型研修を行っている。研修後は速やかに、コ・メディカルによる研修医の評価および研修医によるコ・メディカル各部門・研修プログラムの評価を行い、相方向にフィードバックしている。このコ・メディカル研修で得られた研修医の評価について紹介する。

Key Words : 臨床研修, オリエンテーション, コ・メディカル研修, フィードバック, QC(Quality Control)サイクル

はじめに

平成16年度より卒後臨床研修¹⁾が必修化され、全国の臨床研修病院で初期研修が始まった。当院では、本年度初期研修医19名を引き受け、臨床研修を実施している。当院の研修プログラムでは、厚生労働省の経験目標¹⁾が設定される約20年前から、独自に救急医療や地域医療研修を含めた研修を実践しており、その研修理念は下記のとおりである。

1. 医師としての人格を涵養し、将来の専門性に関わらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。
2. 岩手県における医療の現状を理解し、県立病院の設立理念である、「県下にあまねく良質な医療の均霑を」の精神を具現するために必要な、基礎的な診療能力を身に付ける。
3. チーム医療のリーダーとしての自覚を持ち、他職種の職能を理解し協調しながらチーム医療を実現して行く能力を身につける。

この中で、チーム医療をリーダーとして実現していく

能力を育むためには他職種の業務内容を身をもって体験し、理解していることが望ましい。

当院では、オリエンテーションの中にコ・メディカル研修を取り入れ、看護部3日間（日勤、準夜、深夜勤務を各1回経験）、臨床検査部2日間、中央放射線部、薬剤部、栄養管理室、各々1日の体験型研修を加えている。コ・メディカル研修では実際の看護業務の体験、レントゲン部門の撮影の実際や放射線治療の原理と実践の研修、中央検査部門では血液・尿検査、血液交差試験、病理検体染色など、薬剤部では調剤や服薬指導の実際を経験し、栄養管理室では病院食の試食やベルトコンベア作業等に携わる。その後、コ・メディカルによる研修医の評価および研修医によるコ・メディカル各部門・研修プログラムの評価が行われ、相方向にフィードバックすることにより、さらにより良い研修を組み立てていくよう、研修の質の管理(Quality Control)²⁾³⁾に留意している。

研修医のコ・メディカル研修について紹介する。

方 法

本年度のオリエンテーションは、平成16年4月7日から5月9日までの約1ヶ月間行った。その中でコ・メディカル研修は、4月15日～21日の土日を除く5日間に放射線部、

検査部(I一般検査, II病理), 薬剤部, 栄養相談室の各部門研修を, 5月6日~9日に日勤, 準夜, 深夜勤務を経験する看護部研修を行った。表1.に全オリエンテーションプログラムを提示する。

実際の各部門研修では研修医を5つのグループに分け, 表2.に示した割り当てで研修を行う。また, 看護部研修では, 各研修医を個別に病棟に割り当て, 日勤, 準夜, 深夜の3勤務を経験させた。放射線部研修を表3.に, 薬

剤部研修を表4., 中央検査部研修は表5., 栄養相談室研修を表6.に示す。各部門の研修終了時にレポート提出を義務付け, それを各部門にフィードバックした。

結 果

短い限られた期間ではあったが, 各部門研修の結果, 各部門の業務内容そして各部門のスタッフの業務に対する関わりについて, 研修医みずからが実際に体験するこ

表1. 全オリエンテーションプログラム

4月7日	院長訓話, ワークショップ(理想的医師・研修医とは)
4月8日~9日	病院オリエンテーション
4月12日~13日	面接技法, 診察法, 外科処置
4月14日	コ・メディカル研修オリエンテーション
4月15日~21日	コ・メディカル研修 (放射線部, 検査部I・II, 薬剤部 栄養相談室)
4月22日	国家試験合格発表
4月23日	諸手続きのための休日
4月26日~28日	救急対応(各科救急診療について), 血液センター
4月29日	救急対応(各課救急診療について), 血液センター
4月29日	BLS
4月30日	心エコー, 看護部BLSインストラクター
5月1日	OSCE
5月6日~9日	看護部研修(日勤, 準夜, 深夜)

表2. コ・メディカル研修予定表

	検査部I	検査部II	栄養管理室	薬剤部	放射線部
15日 木	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
16日 金	Eグループ	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
19日 月	Dグループ	Eグループ	Aグループ	Bグループ	Cグループ
20日 火	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Aグループ	Bグループ
21日 水	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Aグループ

表3. 放射線部研修予定表

時間	研修部門
9:00~10:30	一般撮影
10:30~12:00	MRI
13:30~15:00	CT
15:00~16:30	放射線治療
16:30~	レポート記載

表4. 薬剤部研修予定表

時間	研修項目	担当責任者	場所	備考
9:00~9:30	薬剤部内見学	次長	薬剤部	見学
9:30~10:00	処方箋, 注射指示箋について	調剤主任	薬剤部	講義
10:00~12:00	調剤(散, 水, 錠, 血液)	調剤主任	調剤室	実習
13:00~13:30	病棟業務講義	病棟主任	薬剤部	講義
13:30~15:00	病棟業務	各病棟担当	各病棟	実習
15:00~17:00	製剤, 無菌調剤について	製剤室主任	製剤室	講義, 実習
17:00~17:15	まとめ, レポート提出	部長	薬剤部	講義

表5. 中央検査部研修予定表

時間	検査Ⅰ	検査Ⅱ	担当者, 部署
9:00~12:00	検査部見学(部署確認)		技師長
	受付(緊急検査) *採血(各自) *血液検査 輸血検査 *血液検査 *交差試験	システム関係 *血液ガス測定 *細菌検査 (グラム染色等)	副技師長 担当主任 1班:血液 2班:細菌
12:00~13:00	昼食		
13:00~16:00	*血液検査 生化学検査 *緊急検査 *パニック値	*病理検査 *生理検査 (心電図, 肺機能, ホルター等)	1班:血液 生化学 2班:病理 生理
16:00~17:00	まとめ, レポート記載		技師長, カンファレンス室

表6. 栄養相談室研修予定表

時間	研修内容	部署
9:00~	健康的な食生活について(研修医自身向け)	栄養相談室
10:00~	栄養指導室	栄養相談室
10:45~	ベルコン作業ほか	厨房
12:15~	検食(検食簿記入)	栄養相談室
休憩		
14:00~	治療食について	栄養相談室
15:00~	栄養指導体験	栄養相談室
16:00~	終了, レポート記載	

とにより、明確に理解できるようになった。また、同時に各部門のスタッフが研修医と接することにより、新臨床研修制度への理解がすすみ、そして各研修医の顔を覚える良い機会にもなったと考えられた。以下に研修医のレポートに示された各部門研修の成果と反省点について、代表的提言を示す。この提言を各部門にフィードバック

するとともに、次年度のオリエンテーションの改善への一助としたい。

1. 放射線部研修

放射線治療の実際を見る機会が大学では少なかったの
で、見ることができて良かった。温熱治療の機器を初め
て見る事ができた。

・一般撮影ではアナログとデジタルの違いを実際の写真で示して頂いたことや透視台に実際乗って寝起きすることで、見ただけではわからない患者様の大変さを体感できたこと、造影CTでは、患者様への方法の説明を見せて頂いたことが良かったです。MRIでは中で本物の金属を持ってみて磁場の危険を体験でき感動しました。

・単純XpとCTの講義はおもしろかったです。造影剤を使わなくても血管の様子がここまで観察できるのか、と分かって勉強になりました。

・CTでの3Dへの再構成は大変興味深かった。もう少し読影に関する項目があると更に良いのではないかと思います。

・いろいろ体験させる形式はとても良いと思う。来年以降も続けて欲しいです。

・放射線にかかわる部署として一般撮影、CT、MRI、放射線治療について説明と実際の業務を見せて頂いて、大学で習っていた所は新たに整理され、又実際に臨床で必要なところも説明してもらったので、今後少しでも意識して活用していきたいと思いました。

・あまり専門的すぎて分かりづらい部分もありました。

・放射線治療の具体的な装置の説明は難しく理解できなかったのもう少し簡潔に必要なことを教えて欲しい。

2. 薬剤部研修

・薬剤管理指導について良く理解できた。オーダーリングシステムの同一薬剤検索や薬剤情報の見方が分かった。

・実際に製剤をやってみたことが印象的で、大学の實習にはなかった内容盛り沢山の研修をさせて頂けて良かったです。薬剤部の方々のお話を沢山聞いたのも貴重な体験になりました。

・通常の業務ではみることの少ない部分も見ることができた。軟膏まぜは、ちょっと疲れました。

・注射薬を病棟ごとに取り分ける作業など目にしたことのない作業もあった。薬剤部の方々の「処方箋、指示箋はしっかり書いて下さい」との言葉を頭にたたきこんで今後の研修に務めたい。

・薬剤師さんが病院でどのような役割を担っているか知ることができた。特に病棟での患者さんとの関わりはとても大切で、医師だけではとうていできない薬の説明は、これからますます必要になってくると思う。

・薬剤師の仕事内容がこの10年くらいで大きく変化したということを知らなかったのもう少し色々な仕事内容があるのだなと感じた。チーム医療ということを実践していると感じた。

3. 中央検査部研修

3-1. 中央検査Ⅰ部門

・交差試験の説明が明快だった。

・検査をオーダーしてからの流れがだいたい理解できたので良かった。

・しばらく忘れていたので思い出せました。あと、自分の健康状態も知れてよかった。

・実際に翼状針で採血できたり、自分達の検体を使ってクロスマッチ検査ができたりして手を使って研修できてよかった。

・検体を出してからの流れがよくわかった。検体とりちがえなどの対策で、いろいろな方面で何重にもチェックしてもらっているのがわかった。

・検査の仕方は実習等でやったことはあったのですが、すっかり忘れていたので、思い出すことができ良かったと思います。中央病院ではどんなシステムで検査が行われているのかを理解できたのも、今後役に立つと思いました。

・微妙な待ち時間が多かった気がします。

3-2. 中央検査Ⅱ部門

・グラム染色はとても必要なので良かった。

・病理部では、術中病理をリアルタイムで見ることができ、オーダーされた側はこういう仕事をしているのだなと思いました。オーダーの仕方によって技師さんたちが大変だったり、逆にやりやすかったりすることがよくわかり、気をつけなければいけないと感じました。

・大学の實習でもみれなかったこともあったし大変有意義でした。

・病理部でオーダーしてからかかる時間など、これから役立ちそうな情報がいろいろあり、ためになりました。

・女の子が1人の班もあって被検者になれない女の子もいたみたいなので、女の子はペアにしてグループ分けした方が良かったと思った。

4. 栄養相談室研修

・実際に患者さんの口にしていない食事を作ったり食べたりすることはこれから患者さんを診ていくにあたり、とてもためになりました。

・ベルトコンベアの前に立って研修をしてみて忙しさが身にしみてわかりました。

・患者さんが補助食品として出されているものの味が良くわかった。どれほどのものか考えて処方するべきだと思った。

・配膳作業は1回だけなので楽しめたが毎日3回と考えるとハードな仕事という印象を受けた。

・厨房に入って見学する時間が長すぎると思った。

5. 看護部研修

・24時間ひととおり看護実習をしてみて、医者が患者さんを診ているということは、患者さんの一部に過ぎないのだと思いました。「全人的医療」を行うためには他の

スタッフとの連携が欠かせないと痛感しました。

・想像以上に書類書きの仕事や雑用が多く、驚きました。
・重症の患者さんの家族がとても疲れきった様子だったのが印象に残りました。

・医師の仕事が遅れるとみんながその影響を受けると思いました。

・亡くなった患者さんの処置で最後まで人間らしく接する態度を学んだ。

考 察

新臨床研修制度下では、今までの大学でのストレート研修では不十分と思われるプライマリ・ケアを実践できる総合的医療、全人的医療の研修が必須である。特に高度化、かつ各職種の業務の細分化が進んだ現在、患者により良い医療を提供するためには、医師がリーダーとなって各スタッフが丸となり、チーム医療を実践していくのが良い方法であると考えられる。そのために医師は各部門のスタッフの業務内容を理解していることが必要と思われる。当院の研修プログラムでは、短い期間ではあるが、オリエンテーションの中にコ・メディカル研修を採用し、各部門の体験を義務化している。そこで得られた経験は研修医として、あるいは医師として必要不可欠なものになると考えていると同時に、その副次的効果として、各部門のスタッフの研修医に対する理解が進み、病院全体に研修医を育てていくという土壌を拡大させることにも寄与している。また、研修プログラムに対する研修医からのフィードバックにより、この研修プログラムをさらに充実した成果の上がるものにならなければならない責務も我々にはある。

現在、ISO 9001の手法を用いて種々の分野で業務のQC(Quality Control)：質の管理を実践し、医学分野においても成果をあげている報告²⁾³⁾が見られる。新臨床研修医オリエンテーションプログラムで我々は同様の手法を用い、コ・メディカル研修を計画(P.L.A.N)し、研修医が研修を経験(D.O)し、研修医あるいはコ・メディカルスタッフから得られた研修に対する意見や感想をもとにプログラムの検証(C.H.E.C.K)を行い、その不備な点を各部門および研修医にフィードバックするとともに研修プログラムの見直し(A.C.T)を行っている。いわゆるQC(Quality Control)サイクル(図1.)を回転させて、さらに充実した研修プログラムの作成そして研修実施のため、今後も検証と見直しの継続が必要である。

結 語

岩手県立中央病院初期研修オリエンテーションにおけるコ・メディカル研修について紹介した。本プログラム

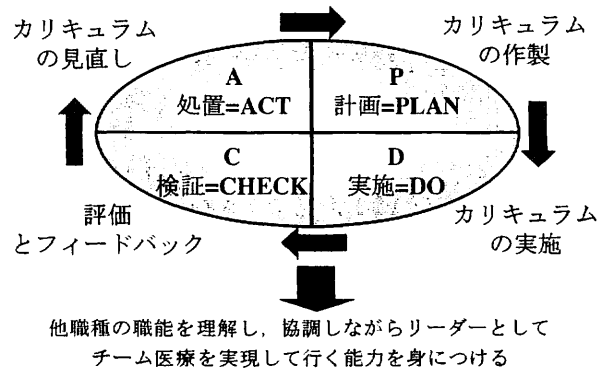


図1. コ・メディカル研修の質の管理(QCサイクル)

は研修医を育てる目的で作成され、各部門の業務を研修早期に理解することに役立っている。さらに常にフィードバックを行いながら検証することにより、研修プログラムの充実にも寄与している。そして、研修初期にコ・メディカルスタッフと業務を伴にすることにより、研修医を育成する意識が病院の各部門のスタッフにも育ち、良好な人的環境の整備もできると思われ、紹介した。

文 献

- 1) 厚生労働省医政局長：医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について。医政発第0612004号、平成15年6月12日。
- 2) Beholz S, et al: Quality management system of a university cardiac surgery department according to DIN EN ISO 9001 : 2000. Thorac Cardiovasc Surg. 51:167-73, 2003.
- 3) Fleming CM, et al: The suitability of ISO 9001 as a quality system for a medical illustration department. J Audio Media Med 24 Suppl:S17-22, 2001.

別刷請求先：

(020-0066) 盛岡市上田1丁目4番1号
岩手県立中央病院医療研修部 高橋弘明

Post-graduate clinical training programs ; of Iwate Prefectural Cenral Hospital

Hiroaki Takahashi, Hirohumi Seki, Takashi Sasaki, Mikihito Ishiki
Iwate Prefectural Central Hospital

Post-graduate clinical training was made to be a required subject for the first time this year, and 19 interns participated in the first training course. The philosophy of training offered at this hospital is composed of three elements, and the third element is that "interns are to have the awareness of a leader of team medicine, and are to acquire the abilities required to realize team medicine while understanding the functions of other health care professionals and collaborating with them." In order to develop skills as a leader of team medicine, it is desirable that interns experience and understand the type of work performed by other health care professionals first hand. With this in mind, we have incorporated co-medical training into our orientation program, and have interns rotate through the nursing department for 3 days, the clinical laboratory department for 2 days, and the central department, pharmacy department, and nutritional management department for 1 day each. Following training, co-medical staff members promptly evaluate the interns and interns promptly evaluate each of the co-medical departments and training programs, allowing feedback in both directions. The following provides an introduction to evaluations by interns obtained during the course of co-medical training

Keywords : Post-graduate clinical training, orientation, co-medical training, feedback, QC cycle